



STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ2010推進ニュース

—介護ウェーブの“Big Wave”をおこそう！—

方針「今後の介護ウェーブの取り組みについて」を具体化し介護改善要求の声を国会に届けよう！

「介護崩壊から奇跡、きらめき、感動の介護へ」今後の取り組みを意思統一

第2回やまなし介護フォーラム開催(4月10日)160名を超える参加(山梨)



山梨県民医連や山梨県保険医協会等の12団体で構成する実行委員会主催の「第2回やまなし介護フォーラム」が、関係者も含めて160名を超える参加で開催され、この間実施した介護保険利用者・家族570人の実態調査の報告の後、石川満教授（日本福祉大学）の記念講演「介護保険改善いまがチャンス」等の企画が行われました。

最後に、集会アピール「介護の仕事に誇りと生きがいをもって！」「伝えましょう、介護のロマン！」「声を上げましょう！介護保険改善！」「共に力を合わせていきましょう！」等が確認され、「介護ウェーブ2010」の取り組みの意思統一が行われました。

その他の企画では、「今日も良し表情伺い一安心」「ヘルパーの帰る背中にありがとう」「ありがとうたった五文字にすぐわれる」等、利用者・家族、職員からフォーラムに寄せられた140個の川柳や、山梨民医連の「奇跡・きらめき・感動・今伝えたい介護のロマン」をまとめたこの間の取り組みが映像で紹介されました。本フォーラムのテーマは、「介護崩壊から奇跡、きらめき、感動の介護へ」です。

「介護保険は、『仏の中に魂いれず』といった状況になっている」と指摘

小石沢学実行委員長（山梨県保険医協会会長）は開会挨拶で、介護保険制度は、『介護の社会化』を理念に、国民は期待を持ってできた制度であったと当時を振り返り、現状の問題点として、保険料アップや、認定制度の改悪、介護人材不足、特養の入所待ち等にふれ、「本当に必要なサービスさえも利用することができない制度になっている。家族は心身ともに疲れ、厳しい状況が続いている。介護保険は、『仏の中に魂いれず』といった状況になっている」と指摘しました。その上で、「介護保険制度が人のために心をこめた中身にしていくために、みんなで知恵を出し合い、力を合わせていこう」と呼びかけました。



「憲法25条に乗っ取った介護保険制度の改善が必要」

共立介護支援センターの右田氏は、山梨民医連の居宅介護支援事業者がある8市町の介護保険利用者・家族830名を対象に昨年10月に実施したアンケート調査結果を報告。本当に必要なサービスさえも利用できない状況になっている調査結果に対し、「憲法25条に乗っ取った介護保険制度の改善が必要である」と指摘しました。

調査結果では、住宅状況は持ち家率が高いことや、家族構成は43%が独居または老々世帯で、世帯収入は150万円以下が50%を超える結果になっています。また、介護者家族の介護をするようにな

ってから困っていることとして、「精神的負担が大きい」が最も多く、「介護にかける時間・労力が増えた」「いつまで介護が続くか分からない」「肉体的負担が大きい」と続き、介護保険があっても家族の負担が解消されていない状況となっています。

一人ひとりの命を守る視点で取り組むためには、事例調査が必要



石川教授は記念講演「介護保険改善いまがチャンス」で、国の調査結果から、国民の所得状況や生活意識、国民年金、国民健康保険の低納付率等の国民生活の実態を解説し、滞納者へのペナルティーの強化ではなく、市町村の窓口や関係者による丁寧な相談なしには解決しない問題であると指摘しました。また、医療と介護分野については、公的責任として問題を自治体レベルで協議していく必要性や、政権が変わっても財源不足で社会保障システムが機能不全になっている問題点等を指摘しました。最後に、今後のたたかいの取り組みにおいて、「一人ひとりの命を守る視点で取り組むためには、事例調査が必要で、すべての人がその地域で暮らしていく制度となるよう、みなさんに奮闘していただきたい」と、期待を述べました。

利用者・家族・事業所から介護保険制度に対する状況等が報告

利用者・家族、事情所の5名から、「特養の改築は新型特養しか補助金が認められず、低所得者対策として多床室を認めてもらえるように県と交渉している経過」「ヘルパーは家族の目線で家族の一員として助けになっていて、母を元気にしてもらったという経験」「家族同様に利用者に寄り添い、同じ時間を過ごし、ありがとうの言葉が一番の喜び。生きていては仕方がないといった声がなくなる介護保険制度に改善していきたいという決意」等、介護保険制度に対する問題点や現場で起こっている状況等が報告されました。

「今日の学びを今後の取り組みにつなげていこう」

保坂勢津氏（甲府市介護保険を良くする会会長）は、閉会挨拶で、この間の介護保険制度の見直しで改悪が続き、「利用できない介護保険になっている」と10年目となる介護保険の実態を示し、民主党のマニフェストには多くの政策が明記されているが、改善策がすすんでいない現状を指摘し、最後に「今日の学びを今後の取り組みにつなげていこう」と呼びかけました。

[事務局短信] STOP! 全国各地の介護ウェーブの取り組みをお寄せください!

この間、「介護ウェーブ推進ニュース」でお知らせしていますが、全国各地で、宣伝・署名行動やシンポジウム等の企画が取り組まれています。2010年4月17日（土）には、東都保健医療福祉協議会（東京）主催の介護保険シンポジウム「どうなる介護保険～介護保険制度10年を検証する」が開催予定です。このシンポジウムでは、シンポジストに、宮島俊彦氏（厚生労働省老健局長）、渡辺俊介氏（東京女子医大教授）、増子忠通氏（柳原診療所所長）を迎え、宮崎和加子氏（健和会看護介護政策研究所所長）をコーディネーターに、各シンポジストの立場から、介護保険制度の10年を検証し、今後の制度の在り方等について議論が行われる予定です。

集会やシンポジウム、学習会等の企画を予定している県連・法人、事業所での学習会の取り組み等、どんな取り組みでもかまいませんので、事務局までお知らせください。本ニュース等で全国にお知らせしていきます。

お問い合わせは、「介護ウェーブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp